

第42回世界スカウト会議概要報告

(2021. 9. 10. 現在)

会議期間：2021（令和3）8月25日（水）～29日（日）

*当初は、2020年8月24日（月）から28日（金）までエジプトで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、1年延期され初めてのオンラインでの開催となった

開催場所：オンライン開催

主催：世界スカウト機構

テーマ：Bridging the World（世界をつなぐ）



日本代表団：合計20人（代表6人、オブザーバー14人）

<代表6人>

1. 水野 正人 日本連盟理事長（首席代表）
2. 佐野 友保 専務理事
3. 福嶋 正己 日本連盟コミッショナー
4. 嶋田 寛 国際コミッショナー
5. 荒岡 草馬 青年代表（福岡県連盟RS理事・第14回世界フォーラム日本首席代表）
6. 大久保秀人 事務局長

<オブザーバー14人>

7. 膳師 功 常務理事
8. 中野 まり 国際副コミッショナー
9. 松平 頼昌 国際副コミッショナー
10. 出田 行徳 進捗管理担当理事
11. 磯山 友幸 改革担当理事
12. 笹渕 真子 国際委員長
13. 小池さくら 愛知RS・第14回世界スカウトフォーラム日本代表
14. 武田 蒼 山形RS・第14回世界スカウトフォーラム日本代表団オブザーバー
15. 俣野 陽 東京RS・第14回世界スカウトフォーラム日本代表団オブザーバー
16. 北村 梨沙 島根RS・第14回世界スカウトフォーラム日本代表団オブザーバー
17. 吉村 敏 事務局次長
18. 佐藤 栄保 事務局長付
19. 吉田 克己 事務局職員
20. 大高 駿 事務局職員

参加者数：170の国と地域より2300人（代表団、オブザーバー）

*8月18日（水）から8月22日（日）までオンラインで開催された第14回世界スカウトユースフォーラムは163の国と地域より713人の参加が発表された。

主要日程：

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| 8月24日（火） | 地域別会合（APR各国連盟首席代表とAPRスカウト委員のみ出席） |
| 8月25日（水） | ウェルカムザワールド、開会セッション、分科会 |
| 8月26日（木） | ビジョン2023報告、分科会、世界スカウト委員候補者紹介、規約改正投票 |
| 8月27日（金） | 24WSJ等の報告、WOSMサービス、世界行事招致投票、世界委員選挙結果 |
| 8月28日（土） | 会議決議案の賛否投票、新世界スカウト委員長と副委員長の発表 |
| 8月29日（日） | 会議決議案の賛否投票、閉会セッション |

日程表：

日本時間 17時から21時までのプログラムは、深夜2時から朝7時まで同じプログラムが行われ、各国の都合の良い時間で参加した。

日本時間	8月24日(火)	8月25日(水)	8月26日(木)	8月27日(金)	8月28日(土)	8月29日(日)
9:00 - 17:00	アジア太平洋地域 (APR) 首席代表会議 15:00-17:00		Q&Aセッションと ネットワーキング *決議案 *規約改正、			世界スカウトインに ボランティアを視線する Q&A
17:00 - 21:00	Regional Meetings **	ウェルカム・ザ・ワールド *テクノロジーの活用 *会議期間中の安全な過ごし方 *国際班 *ダイアログ	ネットワーキングスペース	キャパシビリティビルディングと パートナーワークショップ	各国スカウト連盟 ショーケース	スカウトフォーSDGs NSOとパートナー ワークショップ
			世界スカウティング ショーケース WOSMサービス	ネットワーキングスペース	ネットワーキングスペース	国際ソーシャルイベント
				Q&Aセッションと ネットワーキング * Draft Resolutions * Constitutional Amendment	25WSJに関する Q&Aセッション (Republic of Korea, 2023)	会議成果の各国スカウト連盟 での実践
		毎日のサポートセッション *How to make the technology work *Well-being space *Spiritual space	毎日のサポートセッション *How to make the technology work *Well-being space *Spiritual space	毎日のサポートセッション *How to make the technology work *Well-being space *Spiritual space	毎日のサポートセッション *How to make the technology work *Well-being space *Spiritual space	毎日のサポートセッション *How to make the technology work *Well-being space *Spiritual space
						会議ライブスタジオ

日本時間 21時から25時までは、世界の参加者が同時に接続し、セッションと電子投票等を行った。

日本時間	8月24日(火)	8月25日(水)	8月26日(木)	8月27日(金)	8月28日(土)	8月29日(日)
21:00 - 25:00 find local time	開会セッション Formal opening and unifying the Movement to come together and celebrate the strength and achievements over the last Triennium (Symbolic engagements, appointment of Officers, report on last Triennium, Youth Forum Report)	スカウティングの戦略- ビジョン2023の進捗報告 * Progress report * Celebrating Growth * Welcoming new WOSM members * Introduction to Triennial Plan 2021-2024	分科会 Breakout Sessions Discovering the World Triennial Plan 2021-2024	24WSJ報告 * 24th World Scout Jamboree (North America, 2019)	報告 Reporting * World Non-Formal Education Forum (Brazil, 2019)	報告 Reporting * JOTA-JOTT (2017-2020)
	休憩 Break	2021-2024世界効外委員 候補者のプレゼンテーション	投票の説明	WOSMサービス に関する パネルディスカッション	会議決議 投票セッション * WOSM 3年次計画	会議決議 投票セッション * 決議案
	分科会 Breakout Sessions * Draft Resolutions * Constitutional Amendment	世界スカウト委員候補者との 個別質疑	休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break
	休憩 Break	休憩 Break	報告 Reporting * World Scout Foundation * Kandersteg International Scout Centre	バンデミック後の 世界の青少年育成に関する WOSMとパートナー組織の パネルディスカッション	会議決議 投票セッション * 決議案	会議決議 投票セッション * 決議案
	DEADLINE 15:00 GMT - Amendments to Constitutional Amendments 規約改正議案締め切 25:00	財務報告 2017-2021	世界スカウト行事 招致プレゼンテーション * 26th World Scout Jamboree * 16th World Scout Moot * 43rd World Scout Conference and 15th World Scout Youth Forum	休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break
	分科会 Breakout Sessions * Draft Resolutions * Constitutional Amendment	規約改正 投票セッション	2021-2024 世界スカウト委員の選挙 アナウンス	会議決議 投票セッション * 決議案	会議決議 投票セッション * 決議案	閉会セッション Formal closing and unifying the Movement to come together and celebrate the strength and future of Scouting (Bronze Wolf, outgoing WSC Chairperson Farewell address, Investiture of new WSC members, new WSC Chairperson Address, expressions of gratitude)
	本日のまとめ Wrap up of the day	国際班ミーティング	国際班ミーティング	国際班ミーティング	国際班ミーティング	

日本代表団の準備：

会議に先立ち、8月10日（火）に日本代表団の打合せをオンラインで行い、各決議案への賛否対応、世界スカウト委員選挙等について、対応を検討した。

会議参加者全員にWOSMセーフ・フロム・ハームのeラーニングを事前に2コース履修することが求められ、日本代表団は全員修了した。

会議期間中には、日本代表団の連絡用オンライン会議を設定し、投票にあたって水野首席代表より説明と確認があり、日本連盟としての対応を行った。

主要議題：<https://scoutconference.org/outcomes/> 参照)

今回は、初めてのオンラインでの世界スカウト会議となり、投票は前回アゼルバイジャンでの世界スカウト会議に続いて電子投票が取り入れられた。

また、全体会の様子は、YouTubeのWorld Scoutingチャンネルで同時配信された。

<https://www.youtube.com/user/WorldScouting>

1. 会議諸手続き

会議の手続き規則に則り、8月25日の開会セッションに続き、投票管理委員（テラー）11人、決議起草委員6人の信任投票が行われ、それぞれ全員が承認された。日本連盟からは松平頼昌国際副コミッショナーが投票管理委員となった。

2. 新加盟国連盟

前回の世界スカウト会議以降WOSMへの新規加盟国連盟の紹介があった。これらの国々は既に各国連盟により都度照会があり承認されている。

2019年1月10日 ベトナム

2020年1月 9日 アフガニスタン

2021年6月30日 ソロモン諸島

これにより、WOSMの正加盟は、172の国と地域となり、約5700万人が加盟している。

3. 世界スカウト委員選挙

8月26日に各候補者の紹介と候補者のビデオ、候補者との候補者との個別分科会が行われ、全体会の終了後から翌27日の全体会前までに各国連盟による投票が行われた。

今回の選挙は、25人が立候補し、前任期に引き続き再立候補した者が8人、新規に17人が立候補し、12人を選挙することとなった。

選挙の結果、2024年の世界スカウト会議までを任期とする新たな世界スカウト委員は、次の通りとなり、8月28日には当選者から新委員長と副委員長が発表された。（下線は2期目の委員）

Mr Edward Andrew “Andy” Chapman (United States of America) * 新委員長

Ms Sarah Rita Kattan (Lebanon) * 新副委員長

Mr Jo Deman (Belgium) * 新副委員長

Ms Pia Melin Graasbøll (Denmark) *

Mr Juan Reig (Spain) *

Mr Mehdi Ben Khelil (Tunisia) *

Ms Daiana Neil (Argentina)

Mr Wayne Adrian Davis (Ethiopia)

Ms Christine “Chrissy” Pollithy (Germany)

Mr Mori Chi-Kin Cheng (Hong Kong)

Mr Eun Gui Kim (Republic of Korea)

Ms Nika Gorovska (Ukraine)



直前に開催された第14回世界スカウトユースフォーラムでは、次の6人が選挙の結果、ユースアドバイザーに選出された。(任期は2024年のフォーラムまで)

- Ms. Fatima Aliyeva (Azerbaijan)
- Ms. Reese Medina (Belize)
- Ms. Melissa Wilm Senna Pinto (Brazil)
- Mr. Alhassan Soltan (Egypt)
- Ms. Yoobinnara Kim (Republic of Korea)
- Mr. Maman Lamine Soumana Ide Issa (Niger)

4. WOSM登録料システム (国際登録料)

8月26日に世界スカウト委員会の提案について説明があった。現行の国際登録料は2011年の世界スカウト会議で承認されたものが継続されており、これまでに改正案が検討されてきたが、COVID-19の影響で次の提案がなされた。

- ① WOSMの会計年度である2023-2024年まで、会議決議2011-02で承認された現行の登録料システムと、それにより凍結された各国連盟あたりの年間国際登録料を継続する。
- ② 世界スカウト委員会に各国連盟の登録状況と経済状況のモニタリングを継続し評価することを要請する：
 - a. 状況が十分に安定した場合、第43回世界スカウト会議(2024年)で検討するために新たな登録料制度案を提出させること。
 - b. 状況が十分に安定しない場合は、世界スカウト委員会に現行の登録料制度を2026-2027年度まで継続する権限を与え、第44回世界スカウト会議(2027年)で提案を行うこと。
- ③ 世界スカウト事務局に対しては次のことを要請する：
 - a. 各国連盟が直面している全体的な財務状況を反映して、保守的な予算計画を継続する。
 - b. 影響を受けた各国連盟に対し、国際登録料支払いに関する方針で規定されているようなカスタマイズされた支援を継続する。
 - c. 各国連盟に資金調達のための新たなパートナーシップを模索する

これに対して、水野主席代表より全体会で「コロナ禍で苦しい環境に置かれた国と地域の事情を考えると、今回の改正の延期は止むを得ないが、次回の世界スカウト会議で先延ばしすることなく改正を決議できることを望む」旨の意見が出され、各国から出された意見を踏まえて原案のとおり承認され、決議に含まれることとなった。

5. 今後の世界スカウト行事開催国選挙

8月27日に今後の世界スカウト行事招致に関する説明があり、全体会終了後から翌28日の全体会までに各国連盟の投票が行われた。(各行事1か国の立候補となったため信任投票)

(1) 2024年開催 第43回世界スカウト会議・第15回世界スカウトユースフォーラム

今回の会議がエジプトで開催予定であったが、オンライン開催となったため、3年後の会議にエジプトが再立候補し、エジプトでの開催が決定した。

(2) 2025年開催 世界スカウトムート

当初、アゼルバイジャンとポルトガルの2か国が立候補していたが、アゼルバイジャンが辞退したことからポルトガルのみとなり、投票の結果、ポルトガルでの開催が決定した。

(第16回世界スカウトムートは2020年にアイルランドで開催予定であったが、COVID-19の影響で1年延期となったが、これ以上の準備が困難なため中止となっている)

(3) 2027年 第26回世界スカウトジャンボリー

ポーランドが投票の結果、開催国に決定した。

6. 第42回世界スカウト会議決議

8月28日に世界スカウト委員会および各国スカウト連盟より提案された実務決議案の協議と投票が行われた。(決議文は6ページ以降を参照)

7. WOSM規約(憲章)の一部改正

8月28日に会議決議に関連したセーフ・フロム・ハームに関する改正案が投票により承認された。

8. 分科会

会議期間中、決議案、3カ年計画に関する分科会が開催され、日本代表团もそれぞれ参加した。

9. その他

(1) アジア太平洋地域(APR)首席代表会合

開会の前日となる8月24日(火)15時から17時まで、オンラインでAPR会合が開催された。

日本代表团からは、水野首席代表と嶋田代表(APRスカウト委員会第一副委員長として)が出席し、APRとしても対応について打合せを行った。

(2) 開会セッション

8月25日に開会セッションが行われ、前回世界スカウト会議以降の物故者で檀上善夫元国際委員長と小町國市元理事が紹介された。

(3) 閉会セッション

8月29日に閉会セッションが行われ、新旧世界スカウト委員長の挨拶、前回世界スカウト会議以降のブロンズウルフ受章者の紹介が行われ、日本連盟からは中野まり国際副コミッショナー(元世界スカウト委員)の2017年の受章が紹介された。

以上



第42回世界スカウト会議 決議文

(2021. 9. 10. 現在仮訳)

2021-00 儀礼決議 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）からの回復力

世界スカウト会議は、加盟国連盟の以下の努力に心から感謝の意を表す。

- COVID-19パンデミックという未曾有の難題に直面しながらも、地域社会への貢献を続けていること
- ユースプログラムやスカウティングにおける成人の研修を新しい現実に適応させるために、創造的かつ迅速に対応していること
- 若者に安全な環境での重要なノンフォーマル教育の経験の提供を率先して行っていること
- 若者が革新的な活動を通じてお互いにつながることを支援し、物理的に孤立した状態や大きな不安を抱えている時にサポートしていること

2021-01 新加盟国連盟の登録

世界スカウト会議は、

世界スカウト機構への次の組織の加盟を歓迎し、登録する。

- 2019年1月10日執行 ベトナム・スカウト連盟
- 2020年1月 9日執行 アフガニスタン・スカウト連盟
- 2021年6月30日執行 ソロモン諸島・スカウト連盟

2021-02 世界スカウト機構（WOSM）登録料システム

世界スカウト会議は、

- 2011-2012年から2019-2020年までの会計年度において、すべての加盟国連盟に固定のWOSM登録料を設定した会議決議2011-02を想起する
- 2020年4月に行われた、2020-2021年度に現行のWOSM登録料制度を継続するという加盟国連盟の書面投票の決定を踏まえる
- 世界スカウト委員会・WOSM登録料に関するタスクフォースが、前回の会議で加盟国連盟から提起された懸念を受けて、少なくとも14種類の料金システムを検討し、広範な協議を行ったことを認識する
- COVID-19の世界的流行がスカウト人数に与えた大きな影響と、世界的な経済不況を認識する
- 加盟連盟のスカウト人数の回復と増加を支援するための「スカウト再活性化基金」の設立、および「メッセージズオブピース基金」の継続的な利用を歓迎する
- WOSMの年間登録料に対する加盟団体の期待に対して、安定した予測可能な状況を提供することが包括的に必要であることを認識する
- WOSM規約第XXIII.1条に基づき、会議決議2011-02で承認された現行の登録料システムと、それに伴って凍結された加盟国連盟の年間支払額を、WOSMの会計年度である2023-2024年まで継続して実施することを決定する
- 世界スカウト委員会に対しては次のことを求める、
 - 加盟国連盟の経済状況やスカウト人数の状況の変化を注意深く監視し、第43回世界スカウト会議（2024年）でWOSM登録料システムの改訂案を検討できるかどうかを評価する
 - パンデミック後の経済状況やスカウト人数の状況を考慮して、2017-2020年の3か年計画で開発されたWOSMの登録料システムをさらに調整・評価する
- 世界スカウト委員会には次の権限を与える、
 - 第43回世界スカウト会議までに経済的・スカウト人数の安定性が十分に得られていないと判断した場合、現行のWOSM登録料制度を2026-2027年度まで継続して実施する
- 世界スカウト事務局には次のことを求める
 - 加盟連盟が直面している全体的な財務状況を反映して、保守的な予算計画の策定を継続すること

- 登録料の支払いに関する方針で規定されているように、影響を受けた加盟連盟に合わせたサポートを継続すること
- 加盟連盟に資金調達の手続きを提供し続け、資金調達のための新たなパートナーシップを模索すること

2021-03 スカウティングの戦略 – 2021-2024 世界3か年計画

世界スカウト会議は、

- 2023年までのスカウトの戦略として「ビジョン2023」を承認した大会決議2014-06を想起する
- 世界三年計画2014-2017および2017-2020の全体的な戦略的ガイドラインを承認した会議決議2014-07および2017-03を想起する
- 2017年～2020年の3年間で第42回世界スカウト会議の間のギャップを埋めるために策定されたWOSMの1年計画を考慮に入れている
- 主要業績評価指標（KPI）の使用を含む、世界スカウト委員会の真摯な報告に感謝の意を表す
- 今回の会議の関連セッションにおいて、「2021-2024世界3か年計画」目標案に関する加盟連盟間の議論の結果を考慮する
- 会議資料6Bに含まれる「世界3年計画2021-2024（修正後）」の目標案を、現行のスカウト戦略「ビジョン2023」の最後の3年の間に実施される作業の全体的な戦略的方向性として承認する
- 世界スカウト委員会に対し、2021年～2024年までの世界3か年計画に以下のことを保証するよう要請する
 - 利用可能なリソースの観点から、提案された目標の最終的な現実評価を行い、承認された会議決議との整合性を図る
 - 最終的な3か年計画と、その進捗を測るための重要業績評価指標（KPI）を承認し、計画を実施するための運営体制を確立する
 - 2021年12月31日までに3か年計画の最終版と定期的な進捗報告書を加盟連盟と共有する
- 世界スカウト委員会に対し、スカウト運動全体で「ビジョン2023」と「2021-2024世界3か年計画」の継続的な整合性を確保するための対策と行動をとるよう要請する
- 次期世界スカウト委員会に対し、スカウト運動に関与する参加型のプロセスを通じて、次期スカウト戦略（「ビジョン2023」以降）を策定し、第43回世界スカウト会議（2024年）で最終提案を検討するよう要請する
- 世界スカウト委員会に対し、このプロセスで得られた教訓を取り入れ、同様のアプローチで次期スカウト戦略の実施を開始するための「2024-2027世界3か年計画」の策定を要請する

2021-04 スカウト運動におけるセーフ・フロム・ハームの強化

世界スカウト会議は、

- スカウトを危害から守るという世界スカウトの強いコミットメントを強調するための会議決議1990-16、2002-07、2017-05の承認と実施を通じて得られた進展を認め、「世界セーフ・フロム・ハーム方針」を採択する
- 110年にわたって若者の能力強化をしてきたスカウト運動として、虐待者が児童虐待を行った事例に悩まされてきたことを認める
- スカウト運動を代表して、我々は以下のことを宣言する
 - 肉体的、言語的、感情的、性的なものを問わず、若者や大人に対するあらゆる虐待を強く非難する
 - スカウティングプログラムを、若者や大人に対して非難されるべき虐待行為を行うためのプラットフォームとして悪用した人がいることを嘆く
 - 虐待の事例に深く警戒し、被害者に心からお詫び申し上げる
 - 価値観に基づく運動として、若者から大人まで、すべての被害者の幸福を考える
 - 虐待の被害者に対する倫理的・法的責任を遵守するために加盟連盟が講じた措置を支持することを表明する
 - 本会議決議の完全な実施を含め、あらゆるレベルで前向きかつ緊急の措置を講じることを求める
- スカウト運動のすべてのレベルにおいて、「世界セーフ・フロム・ハーム方針」の継続的かつ強化された実施が緊急であることを再確認する
- 世界スカウト委員会および世界スカウト事務局に対し、加盟連盟の重要な優先事項として、「世界セーフ・フロム・ハーム方針」の実施を検討するよう要請し、以下の方法でこれを支援する
 - 加盟連盟が本会議決議の要請を達成できるよう支援を強化する
 - 2021年から2024年の3年間で、加盟連盟が「世界セーフ・フロム・ハーム方針」を遵守しているかどうかを監視するための定期的な評価メカニズムを構築し、テストし、展開する
 - 2025年時点での「世界セーフ・フロム・ハーム方針」の遵守を、各国の規制や要件に配慮しながらどのように実施するのが最善かを検討する
 - 世界および地域のすべての行事、コミュニケーション、資源活用において、「セーフ・フロム・ハーム」ガイ

- ドラインを完全に統合し実施する
- 世界および地域のスカウト行事で「セーフ・フロム・ハーム」に関する事故が発生した場合、今後の事故のリスクを軽減するために学ぶ文化を確保する
- 加盟連盟間の調整と最善の措置の共有を強化する
- 加盟連盟と世界スカウト事務局が協力して、不適切な成人がスカウト運動の中でボランティア活動をするのを防ぐ方法を調査する
- 全ての加盟連盟に以下のことを要請する
 - 若者の安全と精神的な幸福、そして彼らの成長がスカウトの使命の中心であることを認識し、最優先事項として「セーフ・フロム・ハーム」の問題に取り組む
 - 第43回世界スカウト会議までに、世界スカウトが提供する強化されたサポートを最大限に活用して、「世界セーフ・フロム・ハーム方針」の遵守を達成することを確約する
 - 「セーフ・フロム・ハーム」がすべての業務分野、特に全加盟員の教育、ガバナンス、コミュニケーションに横断的に組み込まれていることを確認する
 - 若者と成人の安全を守り、虐待の可能性のある事例を報告する権利と義務についての意識を高める

2021-05 青少年の関与戦略

世界スカウト会議は、

- 青少年の関与は、スカウトの中核的な教育方法の構成要素であり、スカウト運動の優れたガバナンスに不可欠な要素であることを認識する
- 教育的、制度的、そして地域社会における青少年の関与を強化するためのあらゆるレベルでの方向性を示す世界スカウト青少年参画方針を参照する
- 包括的な意思決定への青年の参画、および世界スカウト会議への代表団への若者の参加に関連するいくつかの会議決議（最近では**2017-07**）を確認する
- この3か年に「世界スカウト委員会の規模と効果」および「世界スカウト青少年フォーラムと世界スカウト会議の進化」に関する2つのタスクフォースが実施した協議に留意する
- 報告書に記載されている「青年の参画戦略**2011-2020**」の実施により達成された進捗状況を認識する
- 会議資料**10**に記載されている「青年の関与戦略」の主な目標と主な目的を承認する
- 世界スカウト委員会に対して次のことを要請する
 - スカウト運動のすべてのレベルの青少年だけでなく、すべての新規および現在のボランティアやスタッフを対象に、青少年の有意義なリーダーシップと関与に関する、導入・オリエンテーションサイクルに含まれる包括的なトレーニングの枠組みを実施する
 - スカウト運動全体およびスカウトのあらゆる側面（隊、組織、地域社会レベル）において、若者のための「青年の関与戦略」をさらに発展させる
 - 2021年から2024年までの3年間、世界スカウト青少年参画方針を見直し、青年の関与戦略の策定との整合性を確保する
 - 全体的な市民教育の一環として若者の関与を保証するために必要な計画、ツール、手段を確立するために、正式な作業構造を通じて加盟連盟とパートナーを結びつける
 - 今後の3年間計画の方向性を示すために、青年の関与戦略を次のスカウト戦略に合わせる

2021-06 世界スカウトユースフォーラムと世界スカウト会議の進化

世界スカウト会議は、

- 世界スカウト会議でより包括的な方法を求めた会議決議**1990-24**、**1993-24**、**2005-12**、**2017-07**に留意する
- 包括的な意思決定への青年の参画および世界スカウト会議への代表団への若者の参加に関連するいくつかの会議決議（直近では**2017-07**）を再確認する
- **WOSM**の意思決定プロセスにおけるユースアドバイザー・システムと世界スカウトユースフォーラムの過渡的かつ暫定的な性質を強調したいくつかの会議決議（最近では**2008-14**と**2017-07**）を再確認する
- 透明性、包括性、善行事例の共有という価値観を支持し、強化するための今回の世界スカウト会議のプログラムと構造の革新を含め、**WOSM**の意思決定プロセスへの若者の参加をより確実にするために達成された進歩を認識する
- スカウト運動は、参加者の多様性がその教育的目的に合致するような運動を目指しており、その目的を達成するためには一時的で適切な措置が必要となる場合があることを認める
- 会議資料**11**で提示された提案を作成するために行われた広範な国際的協議を認識する
- 青少年の意思決定への参加に明確に焦点を当てた革新的な方法を用いて、より包括的で多様性に富み、魅力的な世界スカウト会議を実現するため、会議資料**11**に記載された「新しいイベント」の提案と原則を採択する

- 世界スカウト委員会に対して次のことを要求する
 - 各代表団における定義された年齢以下の参加者の一過性かつ現実的な割合を定義することにより、「新しいイベント」への若者の参加を確保し、この措置は3年ごとに再評価され、会議で全体的に議論される
 - これらの原則は、2024年に「新しいイベント」を実現するための基礎として使用され、現在の世界スカウトユースフォーラムの形式を変革し、世界スカウト会議での能力強化体験と統合することを保証する
 - 青少年が効果的かつ意味のある関与をし、ガバナンスプロセスにおいて若者の代表性を高めるための十分なメカニズムとスペースを確保すること、また、「新しいイベント」のリーダーシップ、プログラムの企画、実施、評価、教育的要素において、世代間交流を確保する
 - 代表団の総合力で会議の議論と意思決定を充実するために、代表団とオブザーバーの両方が会議の前、最中、後に同じ経験をするのを確実にする
 - 「新しいイベント」への若者の参加を確実にするために、若者の登録料を下げることを検討する
 - ガバナンス機能において、「新しいイベント」における若者のスペースの拡大と保護のための実践を継続的に改善するために、これらの措置の質、効果、影響を監視、評価する
- 世界スカウト委員会は、「新しいイベント」を可能にするために、世界スカウト会議の形式、組織、作業方法に関する会議決議1999-08を解除する

2021-07 ユースアドバイザー制度と青少年の意思決定への参画

世界スカウト会議は、

- WOSMの意思決定プロセスにおける世界スカウトユースフォーラムおよび世界ユースアドバイザー制度の過渡的かつ暫定的な性質を強調した会議決議（直近では2008-14および2017-07）を想起する
- 過去数十年にわたる青年の意思決定への参画の進展、特に会議資料10で説明されているように、過渡的措置としての世界ユースアドバイザー制度の成功、そしてこの移行措置を締結するための青少年の意思決定への参画の進展を加速させるスカウト運動の準備に勇気づけられる
- 会議決議2017-11を検討し、最も効果的な世界スカウト委員会を設置する必要性を表明し、可能な限り最も質の高い方法で責任を果たすために、その多様性の重要性を強調する
- 若者の意思決定への参画を継続的に強化し、過去の進展が失われないようにするためには、さらなる努力が必要であることを認識する
- 世界スカウト委員会が、世界スカウト委員会およびその下部組織のメンバーへの青少年の参加を確保し、さらに強化することを目的として、会議資料10で詳しく説明されているように、2021年から2024年の3年間の終わりに世界ユースアドバイザー制度を廃止する意図があることに留意する
- COVID-19とデジタル形式が、スカウト運動内の主要な変更に関する詳細な議論を検討し、促進することができるように加盟連盟に課した困難を理解する
- 地域レベルでの既存の暫定的なユースアドバイザー制度は、その目標が達成されるまで継続することを奨励する
- 加盟連盟に対して次のことを要請する
 - 世界および地域のスカウト委員会の候補者を指名する唯一の組織として、青少年の参画に対する彼らの重要な責任を認識する
 - 世界および地域のスカウト委員会で活躍できる適切な若者を積極的に見つけ、推薦し、支援する
 - 青少年の関与戦略の一環として開発されたトレーニングとガイダンスに沿って、これらの若者の継続的な成長と発展を支援する
 - 組織のすべてのレベルで意思決定に有意義な青少年の関与を確実にするために行動を起こす
 - 世界スカウト会議の代表団に若者を積極的に参加させる
- 世界スカウト委員会に対し、世界スカウト委員会における意思決定への青少年の参画を強化するため、以下の措置を適用するよう要請する
 - すべての常任委員会および運営フレームワークに引き続き30歳未満の若者を含めること
 - 国内、地域、世界の各組織でリーダーシップを発揮したいと考えている30歳未満の若者へのトレーニングの提供を支援すること
- さらに、世界スカウト委員会に以下を要請する
 - WOSMの意思決定プロセスへの青少年の有意義な参加を阻む制度的、構造的、文化的な障壁と、これらの障壁を克服するための機会と提言を明らかにする報告書を提示すること
 - 現行のユースアドバイザー制度に代わる代替措置の可能性を提案し、世界スカウト委員会における青少年の代表性と効果的で意味のある参加を確保すること
 - 他の利害関係者の中でも、加盟連盟、若い会員、青少年の参加に関する専門家、元ユースアドバイザーと協議すること
 - 2023年10月末までに結論を加盟連盟に提出し、加盟連盟が組織や規約の変更を検討するのに十分な時間を確保すること
- 世界スカウト委員会に対し、意思決定における青少年の参画の状況を監視し、その結果が満足のいくものでない場合には、会議資料10の3.3項に記載されている通り、さらなる措置を講じるよう要請する

2021-08 WOSMの環境持続性の強化

世界スカウト会議は、

- 17の持続可能な開発目標（SDGs）とその93の環境関連指標に基づいて行動を起こすことにより、WOSMの取り組みと、環境を保護するための世界的な青少年運動としての協調行動の緊急の必要性を再確認する
- 会議決議2005-20、2008-25、2017-10を承認し、環境教育の強化、持続可能なスカウトイベントの開催、そのような持続可能性対策に関するイベント主催者へのサポートとガイダンスの提供、WOSMの環境への影響と二酸化炭素排出量の調査を要求する
- WOSM環境影響報告書の調査結果と提言を認める
- 国連の気候変動に関する政府間パネルの第6次評価報告書に示された緊急行動の必要性を認識する
- 「アーストライブ」主導の立ち上げによる環境教育への教育的関心の高まりを歓迎する
- 環境の持続可能性に取り組む世界中のメ加盟連盟の貴重で継続的な努力を認める
- WOSMは、気候変動の影響を緩和するために、会員を積極的な市民として活動させることが緊急の課題であることを確認し、気候変動の影響と戦う世界的な青少年の運動としてリードする
- 加盟連盟に対して次のことを要請する
 - 「アーストライブ」やその他の世界的そして国内的な取り組みを利用して、環境教育が国家青少年プログラムに統合されるようにする
 - イベントや会議をより環境に配慮したものにするためのツールとして、持続可能なイベントを開催するためのWOSMガイドラインを遵守する
 - パートナシップを構築して、環境の持続可能性に対する国の教育的および制度的アプローチを強化する
- 世界スカウト委員会と世界スカウト事務局に対して次のことを要請する
 - 気候危機に立ち向かうためのロールモデルとなる
 - 世界のスカウト運動の環境に関する内容とプログラムが推進され、実施され、継続的に改善されていることを確認する
 - 持続可能性に関する新たな取り組みや方針、教育方法を策定・検討する際には、学識経験者や環境問題の専門家に相談する（例：アーストライブの取り組み）
 - 世界のスカウト運動の活動による環境への影響を監視するシステムを構築し、加盟連盟が世界レベルの意思決定に積極的に関与できるような戦略的情報を提供するための報告メカニズムを確実に構築する
 - 遅くとも2033年の第46回世界スカウト会議までにWOSMの事業の気候中立性を達成するために環境持続性の実践を大幅に強化することを目的に、会議資料12に概説されているように、明確で共有された行動計画と測定可能な目標を備えたWOSMの気候影響戦略を次の3年間で策定する
 - すべてのWOSMイベントに対し環境維持基準を作成する
 - スカウト運動の次期戦略を策定する際に、SDGsに記載されている環境の持続可能性を重要な枠組みとして設定し、保全活動を強化することで、地域社会が気候災害からの回復力を高め、環境への影響を補うことができることを認識する
 - 既存の枠組みやメカニズム（GSAT、イベントガイドライン、SCENES認定など）を強化し、環境維持がスカウト運動全体で主流になるようにする
 - 世界および地域のスカウトイベントのホスト国連盟を支援して、環境的に持続可能なイベントの組織を強化し、持続可能なイベントを組織するためのWOSMガイドラインを各国の状況に留意しながら、世界スカウト行事の招致国連盟のためのガイドラインの不可欠な部分にする
 - 世界スカウト行事の招致国連盟がより高い環境基準に準拠していることを示すオプションのラベルを作成し、気候に対する強い取り組みを促進する
 - スカウティングの次の戦略を策定する際には、環境の持続可能性に重点を置き、気候の中立性を追求する
 - WOSMサービスを通じた専用のオンライントレーニングやその他のリソースを開発し、加盟連盟の自然災害に対応した国家行動対応計画や長期プロジェクトの策定に注力する
 - 世界および地域の既存の組織的な協力関係を強化し、外部パートナーとの新たな協力関係を構築することで、気候変動を効果的に改善する上での相乗効果を確保し、気候保護および人道的対応の方針を改善する
 - 加盟連盟が責任ある行動者となり、気候変動の影響を緩和するための地域活動を率先して行い、自然災害への対応に積極的に取り組むことを支援する

2021-09 現代におけるスカウトイベント

世界スカウト会議は、

- 過去、現在、未来の世界または地域のスカウトイベントを主催する加盟連盟の献身的な努力に感謝する
- 現代世界でスカウトイベントを開催することの複雑な性質に留意する
- 世界および地域のスカウトイベントの規模が拡大していることを認識する
- スカウトイベントへの参加費用が増大していることをさらに認識する
- ホスト国連盟と参加国連盟の両方が、スカウトイベントを開催または参加する際に直面する多面的なリスクを

さらに認識する

- COVID-19パンデミックによって引き起こされた海外旅行への継続的な制約を懸念する
- さらに、COVID-19後の時代にイベント主催者が遭遇するであろう公的監視の予想される増加に留意する
- 将来の地域的または世界的な混乱に対する必要な準備をしておく
- 前述の混乱に関連して、スカウトイベントを開催する際のリスクを共有する必要性を強調する
- 世界スカウト委員会に対して次のことを要請する
 - スカウトイベントの主催者に対し、延期や中止など、スカウトイベントの準備に予期せぬ重大な支障が生じた場合に、どのように行動すべきかのガイダンスを提供する
 - ホスト国連盟および参加国連盟の両方の財務的安定性を確保することを目的として、このような混乱を管理・緩和するための推奨ツール（技術、財務、法律、組織など）を準備する
 - 公衆衛生への新たな世界的焦点を視野に入れて、次の10年に向けてスカウトイベントをさらに準備することを目指す
 - ホスト国連盟と参加国連盟の間で、財政的なリスクやその他のリスクを公平に共有する方法を検討する

2021-10 平和のリーダーシップ

世界スカウト会議は、

- 世界をリードする青少年教育運動としての責任を通じて、スカウト運動が平和を約束することを再確認する
- 会議決議1988-08、2005-23、2008-28、2011-16、2014-12、2014-13、2017-08を想起し、特に会議決議2011-16「対外関係における青少年の平和と安全」が「若者と平和と安全に関する国連安全保障理事会決議2250」の発展の重要な基盤となった歴史的影響を認識する
- 国際連合安全保障理事会決議1325とそれに続く「女性と平和と安全」に関する決議、ならびに「若者と平和と安全」に関する2250、2419、2535を了承する
- 進捗調査「消えた平和」の提言が、国連の「若者、平和と安全保障」アジェンダを実施するための有用なガイドラインであることを認め、平和とは包括的な社会を構築する継続的なプロセスであり、不断の努力と注意が必要であること、スカウト運動は若者を地域社会の平和構築者として強化する上で重要な役割を果たしていることを強調する
- 国連の「若者・平和・安全保障アジェンダ」に掲げられた目標への全面的な支持を表明する
- 世界スカウト委員会に対し、国連の青年、平和および安全保障アジェンダの実施におけるスカウトの役割を次のように推進するよう要請する
 - 加盟連盟に対し、「国連青少年・平和・安全保障アジェンダ」に関連する取り組みを特定し、強化するためのガイダンスを提供する
 - 世界のスカウト運動の平和教育プログラムが、包括的で平和な地域社会の創造に貢献する若者の能力に与える影響を評価する
 - 学界、非政府組織、政府間機関とのパートナーシップを確立することで、平和に関するスカウト運動の貢献と影響をさらに理解する
 - 平和と青少年の社会参加の擁護者としてのスカウト運動の役割を強化するために、パートナーと協力して、または独自に国連の「青少年、平和、安全保障」アジェンダの関連部分を地域や国のレベルで実施するためのツールを開発する
 - 平和構築におけるスカウトの役割を強化するため、世界スカウトイベントの開催を検討する
 - 渉外活動を通じて、「青年、平和、安全」に関する政策プロセスに積極的に関与する
- 加盟連盟に対し、国レベルでの「国連青少年・平和・安全保障アジェンダ」の策定や、平和で包括的な社会へのスカウトの貢献を紹介する上で、積極的な役割を果たすことを強く要請する
- 加盟連盟に対し、平和教材（「平和のための対話」と「暴力的過激主義の防止」を含む）を実施することにより、教育プログラムと活動における平和への権利の側面を強化するよう奨励する

Languages

世界スカウト機構の公用語は英語とフランス語である。世界スカウト会議の重要な決定事項を、WOSM の3つの追加言語であるアラビア語、ロシア語、スペイン語でも利用できるように努めている。この文書または世界スカウト機構の他の公式文書の解釈に矛盾が生じた場合、英語の文章が優先されるものとする

以 上